

平成21年度 事業経過報告書

自 平成21年4月1日

至 平成22年3月31日

東京都中央区築地3丁目11番6号
(財) 日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)

平成22年6月17日

平成21年度事業経過報告

世界的な経済状況の影響でモータースポーツを取り巻く環境は厳しさを増し、今年度の事業計画は環境に対応する変化が要求され、従来事業の見直しと必要事業への集中を念頭に、競技内容／運営に関する改善を検討し、平行して中長期的対策を策定して行くことを方針とし各事業に取り組んだ。

◆ ライセンス会員

事業計画では10%減少を予測した。結果的には予測より減少幅は縮小したが前年対比は減少。

- ・ライセンス会員数： 予測値：18,000名（前年比90.8%）／結果：18,699名（前年比94%）
- ・エンジョイ会員数： 予測値：5,500名（前年比89%）／結果：5,835名（前年比94%）
- ・競技会数： 550大会（前年比88%）／結果：609（前年比97%）

◆ スポーツ事業

主要競技会では全日本トライアル近畿大会が新型インフルエンザの影響で中止した以外は計画通り開催することが出来た。全日本選手権は各種目とも厳しい環境を反映し参加台数は減少したが、観客数は微増となった。地方選手権は各種目とも参加台数が減少しており、対策が必要である。

事業計画の重点項目に対する進捗は以下の通りである。

- ① 計画：参加する側、運営側にとってコストを抑制する施策や体制作りを推進する。
進捗：・作業部会を開催し対策を検討したが年度内に実施出来た対策は僅かであった。
・全日本ロードレース＝特別スポーツ走行の削減／全日本モトクロス＝2010年の運営コスト外化を決定
- ② 計画：主要競技会の観客動員向上のため、地域密着を主眼とした企画を展開する。
進捗：・全日本ロードレース/モトクロスの開幕戦等で販売店向け告知を地域二輪車協会の協力で実施。
- ③ 計画：年少者／女性の普及対策
進捗：・従来事業のアカデミー（ロードレース/トライアル）レディースロードレースは経費を削減し継続。
- ④ 計画：安全・環境整備への取り組み
進捗：・スポーツ環境整備委員会を開催し、安全装備の推奨・義務付け2010実施を決定。
・エアバックベストをアカデミー・レディースレースで使用し実績を積んだ。
- ⑤ 計画：競技運営を支える人材の育成
進捗：・従来事業のインストラクター養成・競技役員セミナー等開催に留まった。

◆ 管理部門

- ① 計画：事務所の移転を今期中に行う（8月目標）
進捗：計画通り移転作業を予算以下で完了した。
- ② 計画：会員管理システムをリニューアルし事務の効率化を図る。
進捗：システム会社と契約し準備作業を進め、運用は2010年4月を計画したが8月に遅延。
- ③ 計画：スポーツ傷害基金の移行準備
進捗：スポーツ安全保険事務局と数回会合を行い準備作業を進行中
- ④ 計画：新公益法人移行への準備
進捗：調査・検討を行った結果、一般財団/公益財団いずれにも申請可能であることが判明。

◆ その他

① アジアとの連携

- ・ 昨年に続きアジア国別対抗ロードレースをスポーツランド SUGO で開催
- ・ アジアロードレース選手権をオートボリスで初めて開催、全日本と共通する600クラスの規則統一を提案中

② 中長期ビジョンの策定

- ・ 事務局にてライセンス数の推移から予測される今後の収支体質のシミュレーション資料を作成。
- ・ ステークホルダーごとにご意見を伺い、今後の事業のあり方を策定する為、懇談会を開催し2020年に向けたビジョンを策定中。

以上

I. ライセンス会員の登録状況

1. ライセンス会員数

- 1) 競技会員のライセンス取得者数は**18,699**名(昨年19,833名)で前年対比**94%**、
ライセンス発行枚数も**27,774**枚(昨年29,197枚)で**95%**と減少。
- 2) エンジョイ会員は**5,835**名(平成20年10月～平成21年9月)昨年度は6,181
名(平成19年10月～平成20年9月)で**94%**と減少した。
- 3) 競技会員とエンジョイ会員の合計発行枚数では**33,609**名(昨年35,378名)

2. 各種目の会員数

- ① ロードレース **7,580**名(昨年8,049名)前年対比**94%**

地方選手権衰退・高齢化等で国内／フレッシュマンが大幅に減少した。

種目	区分	08年度	09年度	対比
ロードレース	国際	889	867	98%
	国内	4537	4297	95%
	フレッシュマン	2564	2337	91%
	ジュニア	59	79	134%
	計	8049	7580	94%

- ② モトクロス **2,510**名(昨年2,597名)前年対比**97%**

年齢構成は若者がマジョリティを占めているが、総数は減少傾向

種目	区分	08年度	09年度	対比
モトクロス	国際A級	174	166	95%
	国際B級	528	487	92%
	国内A級	305	278	91%
	国内B級	833	828	99%
	ジュニア	624	610	98%
	PC	133	141	106%
	計	2597	2510	97%

- ③ トライアル **1,572**名(昨年1,656名)前年対比**95%**

高齢化は顕著。国際Aが増加

種目	区分	08年度	09年度	対比
トライアル	国際A級	132	140	106%
	国際B級	395	378	96%
	国内A級	411	390	95%
	国内B級	700	651	93%
	ジュニア	18	13	72%
	計	1656	1572	95%

- ④ スノーモビル **245**名(前年251名)前年対比**98%**

種目	区分	08年度	09年度	対比
スノーモビル	A級	98	97	99%
	B級	127	119	94%
	ジュニア	26	29	112%
	計	251	245	98%

- ⑤ ドラッグレース **56**名(前年74名)前年対比**76%**

公認・承認競技会が開催出来なかった為、返金した。

種目	区分	08年度	09年度	対比
ドラッグレース	A級	38	27	71%
	B級	36	29	81%
	計	74	56	76%

- ⑥ ダートトラック 56名（前年34名）前年対比 156%

種目	08年度	09年度	対比
ダートトラック	36	56	156%

- ⑦ スーパーモタード 469名（前年523名）前年対比 90%

コスト上昇、技量格差拡大等で減少傾向。

種目	区分	08年度	09年度	対比
スーパーモタード	A級	226	227	100%
	B級	297	242	81%
	計	523	469	90%

- ⑧ エンデューロ 105名（前年110名）前年対比 95%

種目	08年度	09年度	対比
エンデューロ	110	105	95%

- ⑨ ピットクルー 9,198名（前年10,077名）前年対比 91%

種目	08年度	09年度	対比
ピットクルー	10077	9,198	91%

- ⑩ 競技役員 5,983名（前年5,824名）前年対比 103%

種目	08年度	09年度	対比
役員・講師	5824	5983	103%

II. モーターサイクルスポーツ事業

1) MFJ 主催および共催競技会・行事の開催状況

平成21年度中にMFJ主催並びに共催競技会を4大会開催。

※日本二輪車協会（NMCA）と共催にて開催してきた「少年少女モーターサイクルスポーツスクール」は本年より休止した。

2) MFJ 公認・承認競技会（講習会含む）の都道府県別申請状況

- ・平成21年1月～12月まで全国で606大会が開催された。(前年比97%)
- ・申請数は公認競技会前年比102%・承認競技会前年比95%と減少傾向。

支部	公認競技会										承認競技会										合計	中止	開催数	
	R	M	T	S	S	D	E	講習会	走行会	小計	R	M	MX	T	S	S	D	E	S	行事				小計
北海道	4	13	8	3			1	18		47	1				2			7			10	57	1	56
東北	5	11	20	1	6		1	31	5	80	4	9	10	4				2			29	109	17	92
関東	12	25	24	2	6			28	14	111	6	7	1	7	1		8	6		1	37	148	7	141
中部	9	11	15		3			10	13	61	6	2	4	6				4		1	23	84	1	83
近畿		10	13		7			14	2	46			8	9				6			23	69	4	65
中国	8	10	17		7			23		65	4	18	3					5			30	95	4	91
四国		8	8					6	1	23											0	23	1	22
九州	6	9	8		11		1	19	2	56	3		1								4	60	4	56
合計	44	97	113	6	40		3	149	37	489	24	36	27	26	3		8	30		2	156	645	39	606
前年	48	94	110	6	39	3	3	129	47	479	25	40	26	35	1	2	3	28	0	1	164	643	17	626

3) 競技会開催状況

(1) ロードレース

① 世界選手権/特別競技会

格式	開催日	大会名	観客数	
			09年	08年
世界選手権	7月23日～26日	ココラ・ゼロ 鈴鹿8時間耐久ロードレース	103,500	133,500
	4月24日～26日	Moto-GP Polini 日本グランプリ	65,332	87,315
国際競技会	6月13日～14日	Road to 8hours 鈴鹿300km	23,000	25,500
特別競技会	8月22日～23日	もてぎオープン7時間耐久ロードレース	3,300	5,700

② 全日本選手権

鈴鹿2&4の動員が多く全体の観客数は前年対比を上回った。参加数は大きく減少

	開催日	会場	観客数	JSB	ST600	GP250	GP125	GP-M	計
第1戦	4月5日	筑波	17,500	24	51	19	42	32	168
第2戦	4月18日	鈴鹿2&4	57,000	52					52
第3戦	5月24日	オートポリス	24,600	27	51		33	35	146
第4戦	8月30日	SUGO	12,800	28	51	17	42	30	168
第5戦	9月27日	岡山国際	12,800	32	48	15	39	31	165
第6戦	10月18日	もてぎ	16,500	35	54	17	43	28	177
第7戦	11月1日	MFJ-GP 鈴鹿	23,000	27	25	13	25	23	113
		合計	164,200	225	280	81	224	179	989
		1大会平均	23,457	32	47	16	37	30	141
		前年対比	115%	82%	112%	67%	90%	79%	77%

③ チャレンジカップ選手権

◎東日本チャレンジ(SUGO・筑波・もてぎ)

大会数	総参加台数	GP125	GP250	JSB1000	ST600
6	273	67	28	90	88
1大会平均	46	11	7	15	15
前年対比	90%	92%	78%	125%	75%

◎ウエストチャレンジ(鈴鹿・岡山)

大会数	総参加台数	GP125	GP250	JSB1000	ST600
10	301	146		69	83
1大会平均	30	16		17	21
前年対比	58%	76%		65%	75%

◎サウスチャレンジ(オートポリス・HSR九州)

大会数	総参加台数	GP125	GP250	JSB1000	ST600
4	129	6	8	53	62
1大会平均	32	6	2	13	16
前年対比	91%	150%	50%	76%	133%

④地方選手権・承認競技会

◎ロードレース地方選手権・承認競技会

施設	公認競技会 ※1		承認競技会	
	大会数	参加台数	大会数	参加台数
十勝	3	37	4	159
SUGO	4	256	6	536
筑波	4	376	9	1635
もてぎ	4	274	5	871
鈴鹿	6	476	6	687
岡山	6	362	10	1192
九州	4	233	3	84
合計	31	2014	43	5164
1大会平均		65	1大会平均	120

※1 公認競技会開催日の承認クラス参加数除く

◎承認ミニバイクレース

支部	承認ミニバイク	
	大会数	参加人数
北海道	0	0
東北	9	565
関東	5	1751
中部	3	256
近畿	1	16
中国	6	322
四国	0	0
九州	0	0
合計	24	2910
1大会平均		121

(2) モトクロス

① 全日本選手権

場所	観客数	台数	国際B級		国際A級		レディース	チャイルド*	J85	他
			IB2	Open	IA-1	IA-2				
HSR九州	10500	300	73	66	25	45	40	23	28	--
名阪	14196	360	86	83	25	51	50	28	37	--
オブピレ	16000	413	80	74	26	47	49	25	21	91
弘楽園	11000	355	79	75	26	53	48	40	34	--
SUGO	8400	299	80	78	26	51	50	14	--	--
わっさむ	9600	299	44	40	21	44	23	10	12	105
藤沢	11300	276	73	73	24	52	46	8	--	--
名阪	15554	388	80	75	31	50	55	34	43	20
弘楽園	10700	322	72	72	30	52	50	46	--	--
SUGOGP	9700	378	90	89	33	54	58	26	28	--
合計	116950	3390	757	725	267	499	469	254	203	216
平均	11571	339	76	73	27	50	47	25	29	72
対比	105%	92%	84%	82%	87%	100%	94%	100%	89%	133%

モトクロス全国大会：8月1日 東北地区のスポーツランドSUGOにて開催し、選抜クラス182台・併催承認クラス75台の計257台が参加した。

② 地方競技会

	大会数	総参加台数	平均台数	前年対比
地方選手権	67(中止2)	10663	159	96.9%
県大会	27	680	25	80.6%
Total	94(中止2)	11343	184	94.3%

(3) トライアル

① 世界選手権

格式	開催日	大会名	観客数	
			08年	09年
世界選手権	6/6-7	トライアル世界選手権ウイダー日本GP	15,000	14,000

② 全日本選手権 ※第3戦近畿大会はインフルエンザ流行の影響により中止。

	開催日	場所	観客数	台数	IB	IA	IA-S	ユース125
第1戦	3月8日	関東	2,500	119	68	39	11	1
第2戦	5月3日	九州	2,600	82	47	23	12	
第3戦	5月24日	近畿	中止					
第4戦	8月2日	北海道	800	53	28	15	10	
第5戦	9月6日	中国	2,500	105	62	31	11	1
第6戦	10月11日	中部	2,400	117	65	40	11	1
第7戦	10月25日	東北	1,200	94	55	26	11	2
		合計	12,000	570	325	174	66	5
		1大会平均	2,000	95	54	29	11	1
		前年対比	115%	91%	95%	88%	100%	

③ 地方選手権

	大会数	総参加台数	平均台数	前年対比
地方選手権	64(中止1)	4088	65	93%
県大会	40(中止1)	1215	31	120%
Total	104(中止2)	5303	52	98%

(4) スノーモビル

年度	開催地	開催日	観客数	総台数	B	SC	A	J	他
第1戦	苗場	1月24-25日	5,000	135	54	20	61	17	4
第2戦	長野	2月1日	800	115	51	18	50	14	0
第3戦	わっさむ	2月8日	780	155	73	18	73	9	0
第4戦	士別	2月15日	600	155	71	19	76	8	0
第5戦	青森	2月22日	2,000	135	58	19	66	11	0
第6戦	美瑛	3月1日	800	166	69	19	87	10	0
09年間合計(6戦)			9,980	861	376	113	413	69	4
09 1大会平均(6戦)			1,663	144	63	19	69	12	--
前年対比			59%	90%	286%	100%	90%	120%	

(5) ドラッグレース

2009年度全日本選手権は休止となった。

(6) スーパーモタード

① MOT01 オールスターズ

	開催日	場所	台数	moto 1	moto 1op	moto 2	併催
第1戦	4月12日	中部	86	14	22	25	25
第2戦	5月3日	近畿	78	13	20	20	
第3戦	5月31日	中国	53	14	22	17	
第4戦	6月28日	東北	47	12	19	16	
第5戦	8月2日	東北	53	15	19	16	3
第6戦	8月30日	関東	66	14	27	25	
第7戦	9月20日	九州	75	12	19	20	24
第8戦	10月25日	関東	83	10	21	25	27
		合計	516	104	169	164	79
		平均	65	13	21	21	20
		対比	98%	72%	300%	75%	

②MOT01 エア (地方選手権) を下記7エアで開催。

エリア	大会数	総台数	平均
東北エリア	1	9	9
関東エリア	5	261	52
中部エリア	3	131	44
近畿エリア	6	188	31
中国・四国エリア	6	235	39
九州エリア	3	96	24
沖縄エリア	7	152	22
	31	1072	

(7) エンデューロ

	開催日	場所	合計台数	全日本	その他
第1戦	4/11-12	SUGO <東北>	149	39	110
第2戦	6/6-7	御所 <九州>	55	31	24
第3戦	9/5-6	日高町<北海道>	116	34	82
合計			320	104	216
1大会平均			106	34	72
前年対比			102%	117%	97%

4) 代表選手派遣事業

(1)モトクロス・オブ・ネーションズ（国別対抗世界選手権）

ノミネートライダーの体制が整わず派遣は休止とした。

(2)トライアル・デ・ナシオン（国別対抗世界選手権）

ノミネートライダーの体制が整わず派遣は休止とした。

(3)アジア・ネーションズ・オブ・ロードレーシング（アジア国別対抗戦）

若手とベテランの2名を派遣し、年間ランキング2位となった。

	開催日	開催国	参加国	順位	代表選手	
第1戦	6月21日	中国・西安	7か国	3位	丸山隼一	鈴木圭一郎
第2戦	8月29,30日	日本・SUGO	11か国	2位	上江洲克次	鈴木圭一郎
第3戦	10月12日	インド・チェンナイ	11か国	1位	上江洲克次	鈴木圭一郎
第4戦	11月29日	インドネシア・セントウール	10か国	2位	上江洲克次	鈴木圭一郎

(4) ISDE(国際6日間エンデューロ)

ノミネートライダーの体制が整わず派遣は休止とした。

5) 全日本選手権ランキング表彰式典

全日本ランキング表彰式典を平成21年12月20日（日）に東京・大手町の日経ホールにて開催。

Ⅲ 補 助 金 事 業

独立行政法人日本スポーツ振興センター

平成21年度スポーツ振興くじ助成事業：ドレーピングコントロール（年間3回）

補助金額：1,107,000円

IV. モーターサイクルスポーツの普及振興

1) 普及強化事業

① MF J ロードレースアカデミー in Motegi

4期目を迎える標記アカデミーを下記のように開催した。

- ・ 主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会
- ・ 会場：栃木県・ツインリンクもてぎ
- ・ 対象：12歳～15歳 受講者：5名 期間：2009年4月～10月
- ・ 車両：CBR150 NSR-mini 受講料：30万円 ・ 協賛企業：13社

② MF J トライアルアカデミー

2期目を迎える標記アカデミーを下記のように開催した。

- ・ 主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会
- ・ 会場：茨城県・真壁トライアルランド
- ・ 対象：ジュニア（9歳～18歳）・女性 受講者：9名（ジュニア3名・女性6名）
- ・ 期間：2009年4月～11月 車両：持ち込み 受講料：11万円・協賛企業5社

③ MF J レディースロードレース

アカデミー用のCBR150をレンタルし、レースを3回、講習会/練習会を3回開催し普及に努めた。

- ・ 主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会
- ・ 第1回：3月15日（日）筑波サーキット 出場11名
- ・ 第2回：6月6日（土）筑波サーキット 出場13名
- ・ 第3回：10月4日（日）ツインリンクもてぎ 出場22台

④ アジア国別対抗ロードレース

昨年に引き続きSUGOにて開催した。

開催月日：2009年8月29日（土）30日（日）

開催場所：スポーツランドSUGO クラス：CBR150ワンメイク

主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会 協力：スポーツランドSUGO

参加国：タイ・インドネシア・フィリピン・中国・マカオ・台湾・マレーシア・日本・香港・インド

その他11カ国

⑤ モトクロスライディングスクール

モトクロス選手会と協力し、現役国際A級ライダーの講習によるスクールを開催した。

8月1日(日) 場所：宮城県スポーツランドSUGO 対象：モトクロス全国大会参加者

インストラクター(敬称略)：鈴木友也・熱田孝高・成田亮・原田翼・今野陽平

2) 安全・環境・健康に関する活動

① レスキュー講習会

競技役員のレスキュー技術の向上を目的とし、モータースポーツライフセービング機構(LSO)のセミナーを以下のように実施し、合計110名が資格を得た。

09年12月6日	近畿	12名
09年12月12日	関東	27名
10年1月24日	中部	63名
10年2月20日	九州	8名

② インストラクター養成セミナー

ライダー養成にあたる人材育成を目的に、レース専門分野ならびに、大学の講師によるスポーツコーチング、熱中症予防に関する講義を行い資格認定した。

・6月27日 東京・日本印刷会館研修室 受講者49名(内新規16名) 昨年29名

③ ドーピングコントロール

ドーピングコントロールを下記のように実施し、違反者は無かった。

種目	格式	実施日	場所	区分	検査数
ロードレース	全日本	8月30日	SUGO	MFJ事業	3
モトクロス	全日本	7月5日	北海道・和寒	MFJ事業	3
トライアル	全日本	9月6日	岡山	MFJ事業	3

④ サーキットアドバイザーへの補助

各サーキットのスクール・イベント時に主に安全面の指導を行うサーキットアドバイザー制度促進の為、補助を行った。

⑤ 安全装備の研究

・エアバッグベストをMFJロードレースアカデミーの受講者、レディースロードレース参加者に貸出し、有効性を確認した。

- ・環境整備委員会にて次年度ロードレースにおいて脊椎プロテクション装着を義務付け、胸部プロテクションを推奨し、H23年度より義務付けることを決定。

3) 広報活動

- ① MFJ の広報機関誌である月刊「ライディング」及び別冊 MFJ 国内競技規則書を年間累計 **183,250 冊** (昨年 197,450 冊) 発行。機関誌とホームページの情報内容の仕分けを行い、速報性に限界のある機関誌は年間 8 回とした。ライセンス会員、特別会員、賛助会員、ネットワークショップ及び報道機関などに広く配布し、MFJ 活動の広報に努めた。
- ② MFJ オフィシャルホームページは本年 4 月 1 日より 11 月末日まで **684,814 件/月** 平均 **85,600 件** (昨年 730,160 件/月平均 91,270 件) のアクセスを得た。CS 放送制作会社の Web ページとリンクし、全日本選手権ロードレースの動画配信を行った。また、同 5 種目の全日本選手権の結果速報・レポート・写真を掲載し内容充実と速報性の向上を行った。
- ③ 主にネットワークショップに向けてのイベント情報を FAX 通信にて毎月 1 回 (15 日発行) 配信した。年間 **12** 回配信
- ④ ライセンス会員募集のために二輪専門雑誌の広告掲載(**9** 媒体・**25** 回予定)並びに募集パンフレットを作成し、配布した。
- ⑤ ネットワークショップを中心に掲出するポスターカレンダー (加盟団体ごとの地域イベントを中心とした内容) を作成し、広く配布予定。
- ⑥ プロモーション委員会において、全日本ロードレース選手権を中心にシリーズ告知等広報宣伝活動を展開した。
 - ・ CS 放送スポーツ専門チャンネル Gaora にて番組名『モトバトル』で全日本ロードレース並びにモトクロスを全戦放映した。
 - ・ 専用ホームページ Superbike.jp にて各大会の告知を中心に情報発信した。
1 月～11 月のアクセス数 1,435,467 件 (昨年 951,596 件)
 - ・ 10 月 10 日・11 日に東京お台場で開催した 2009 モータースポーツジャパンに出展し告知広報い来場者アンケートを実施した。来場者：102,980 名
- ⑦ 東京/大阪で開催されたモーターサイクルショーにて MFJ ブースを展開し、競技会の広報宣伝や会員募集に努めた。
 - ・ 第 26 回大阪モーターサイクルショー
日時：2010 年 3 月 20 日～22 日 場所：インテックス大阪

入場者数：41,256名（3日間合計・前年比101.5%） 2009年 40,624名

- ・ 第37回東京モーターサイクルショー

日時：2010年3月26日～3月28日 場所：東京ビックサイト

入場者数：92,304名（3日間合計・前年比93%） 2009年 99,739名

V. 地方組織

1. 加盟団体会長・事務局長会議

加盟団体との情報共有の為、会長/事務局長会議を定期的開催した。

2. ネットワークショップ

ネットワークショップ加盟推進活動を行ったが、247店舗（昨年278店）と大幅に減少した。

3. 加盟団体ごとの活動状況は以下の通り

支部	会員数					競技会			全日本選手権						Nショップ	HP	表彰式
	ライセンス		エンジョイ	合計		公認	承認	計	RD	MX	TR	SN	SM	ED			
	枚数	人数		枚数	人数												
北海道支部	1544	928	267	1811	1195	45	10	55	0	1	1	3	0	1	9	○	最終戦時
東北支部	2345	1503	608	2953	2111	79	28	107	1	3	1	1	2	1	23	○	最終戦時
関東支部	10463	6906	2285	12748	9191	110	34	143	2	1	1	2	2	0	84	○	○
中部支部	4501	3130	695	5196	3825	60	23	83	2	0	1	0	1	0	39	○	○
近畿支部	4506	3116	885	5391	4001	46	22	68	0	2	1	0	1	0	45	○	○
中国支部	1628	1166	554	2182	1720	65	29	94	1	2	1	0	1	0	12	○	○
四国支部	728	517	178	906	695	23	0	23	0	0	0	0	0	0	11	○	最終戦時
九州支部	2059	1433	364	2423	1797	54	4	58	1	1	1	0	1	1	24	○	○
	27774	18699	5835	33609	24535	482	150	632	7	10	7	6	8	3	247		

VI. 国際交流

世界におけるMFJの役割として、海外選手の受け入れ、選手並びに日本代表チーム、事務局員を海外に派遣し、国際交流を促進し、MFJ並びにアジア地域における人材育成を通じて、モーターサイクリススポーツの活性化を推進した。

- 1) 4月 世界耐久選手権鈴鹿8時間耐久開催のためFIMコ査察立会に事務局員を派遣。
- 2) 4月 アジアRD選手権開催のためプロモーターとの会合に「事務局員を派遣。
- 3) 6月 アジア国別対抗ロードレース第1戦中国大会に日本チームを派遣。
- 4) 8月 アジア国別対抗ロードレースをスポーツランドSUGOの全日本選手権併催で開催
- 5) 9月 アジア国別対抗ロードレース第3戦インド大会に代表チームを派遣した。
- 6) 10月 FIMバイアニュアルミーティングに会長及び事務局員を派遣した。
- 7) 11月 アジア国別対抗ロードレース第4戦インドネシア大会に日本チームを派遣。

- 8) 12月 中国にて開催されるアジアロードレース選手権最終戦視察に事務局員を派遣。
- 9) 2010年1月 UAM (アジア協会) 総会 (フィリピン) に会長、事務局員を派遣。
- 10) 2010年1月 AMA の調査・会合に会長、事務局員を派遣。
- 11) 2009年1月 トライアル世界選手権主催者ミーティングに事務局員を派遣。
- 12) 2009年2月 FIM ジュネーブ会議に当該委員及び事務局員を派遣。

VII. スポーツ傷害基金報告

平成21年4月1日～平成22年3月31日

種目	掛金口数	支払い件数	死亡	後遺症
ロードレース	7431	54	0	7
ミニロード	1330	1	0	0
ドラッグレース	56	0	0	0
ミニバイク	5767	17	0	0
スーパーモタード	1001	7	0	0
スーパーモタード小排気量	320	0	0	0
モトクロス	5976	80	0	1
ミニモトクロス	5121	29	0	0
トライアル	7730	11	0	1
エンデュロ	3422	20	0	0
ダートトラック	104	0	0	0
スノーモビル	517	4	0	0
RDスクール・走行会	156	1	0	0
走行会	165	0	0	0
海外共済会	62	0	0	0
ピットクルー	8316	0	0	0
事前準備	0	0	0	0
	47,474	227	0	9

VIII. 諸会議の開催

委員会	2009年									2010年			回数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
理事会			17						17			18	3
評議員会			17						17			18	3
運営・財務委員会			10						9			11	3
加盟団体会長・事務局長	16							18					2
スポーツ傷害基金	22							11					2
中央審査委員会								13					1
規律裁定委員会							27						1
環境整備委員会							28					2	2
中央スポーツ委員会				29				24					2
プロモーション委員会							7		1		3 18作		4
技術委員会		11 28			6	10	6 20	19			8		8
ロードレース委員会				8(作) 17			26(作)	17		12作			5
モトクロス委員会				16		2(作)	30			27作			4
トライアル委員会			26					10		19作	17		4
スノーモビル委員会		14											1
ドラッグレース委員会			23										1
スーパーモータート部会						16		4					2
エンデュロ部会				15			29						2
タイヤ部会										12作			1
競技用装備部会										16ヘル			1
回数	2	3	5	5	1	3	8	8	4	5	4	4	52

以上